

限界を打ち破った時に魅力が出る

今回は、斎藤一人さんの『仕事はおもしろい—当代きっての実業家が明かす仕事術の神髄!』から紹介します。人の魅力って、その人が限界を超えたときに出てくるんです。しゃべるのが苦手な人が一生懸命しゃべっていると、人に大きな感動を与えるものなんです。だから、「私は話が下手だからダメ」じゃない。一番ダメなのは、「話が下手だからやらない」なんです。苦手なことに挑戦している姿は、すてきなんです。みんなにすてきに映るものなんです。

信ちゃんは性格もすてきなんです。だけど、一生懸命やる姿が、もっとすてきなんだよね。本が大の苦手だった信ちゃんが…。本好きが7回読むんじゃない。ほとんどマンガしか読んだことがなかった人が、7回読んだことがすごいんだよね。そのことで、限界という、自分で作った殻を破った。オリンピックが感動的なのも、限界を破って出てくるからすてきなんだよね。で、人って、そういう人の姿を見ると感動するように、神が作っているんです。私たち、猿じゃありませんよね。猿が、なにかをやっても、猿どうしは感激しないんです(笑)。だけど、人は、出来なかった人ができたのを見たとき、感激するようにできている。

みっちゃんも、声や体が震えちゃうほど、人前で話すのが苦手だった。そんなみっちゃんも今では、講演会で2000人を前に舞台に立っている。その姿だけで、すごい魅力があるんです。

限界を打ち破ったときに、魅力が出るんです。人は、できないから魅力がないんじゃない。できないことが一つでもできるようになったとき、すごい魅力が出るんです。それを忘れないでほしいんです。みんなに。だから、みんなにね。「私はできないからやらない」じゃない。やめる言いわけにしちゃダメなんです。

前にも言ったけど、「深い井戸ほど出た水はきれい」なんです。もうひと掘り、もうひと掘りってするんです。成功に向かって歩き出している人を、成功者って言うんです。止まっちゃいけない。歩き続けるんです。千里先からでもいい。成功に向かって歩きだした人は、全部、魅力的なんです。だから、「私、話が苦手なんだ」って人には、「苦手でもいいから、やっごらん」って。「心臓が口から出ちゃう」って人には、「それ見たいからやっごらん」って(笑)。「一回口から心臓が出るところ見てみたい。そんなすてきなショーはないよ」って(笑)。やるって言ったらやろうよ、って。震えてもいい、声が出なくてもいい、それ場で気絶してもいい、だけど立とうよって。

できそうにもないことにチャレンジする姿に人は感動する。それは、年齢だったり、体力だったり、世の常識だったり、という限界を超える姿だ。特に、どこにでもいそうな普通の人、自分の限界を超えようと挑戦する姿に、人は感動する。大勢の人前でしゃべって、何も話せなくて大恥をかいたとしても、ほとんどの人はそれを覚えていない。自分が気にしているほど、他人の話は、聞いていないし、気にしていない。他人の目を気にしすぎると、チャレンジできない。失敗したら恥ずかしいとか、こんなことしたらどう思われるかとか。どんなチャレンジでも(無謀なチャレンジは別にして)、最悪のことを考えてみればわかるが、命まで取られることはない。自分の限界を打ち破ろうとしている人には、限りない魅力がある。

Q1: 筆者は人間のどんな姿に感動すると言っていますか？

A1: ()